

平成20年

近畿地区の造船業・船用工業の現況

近畿運輸局 海事振興部

I. 造船業

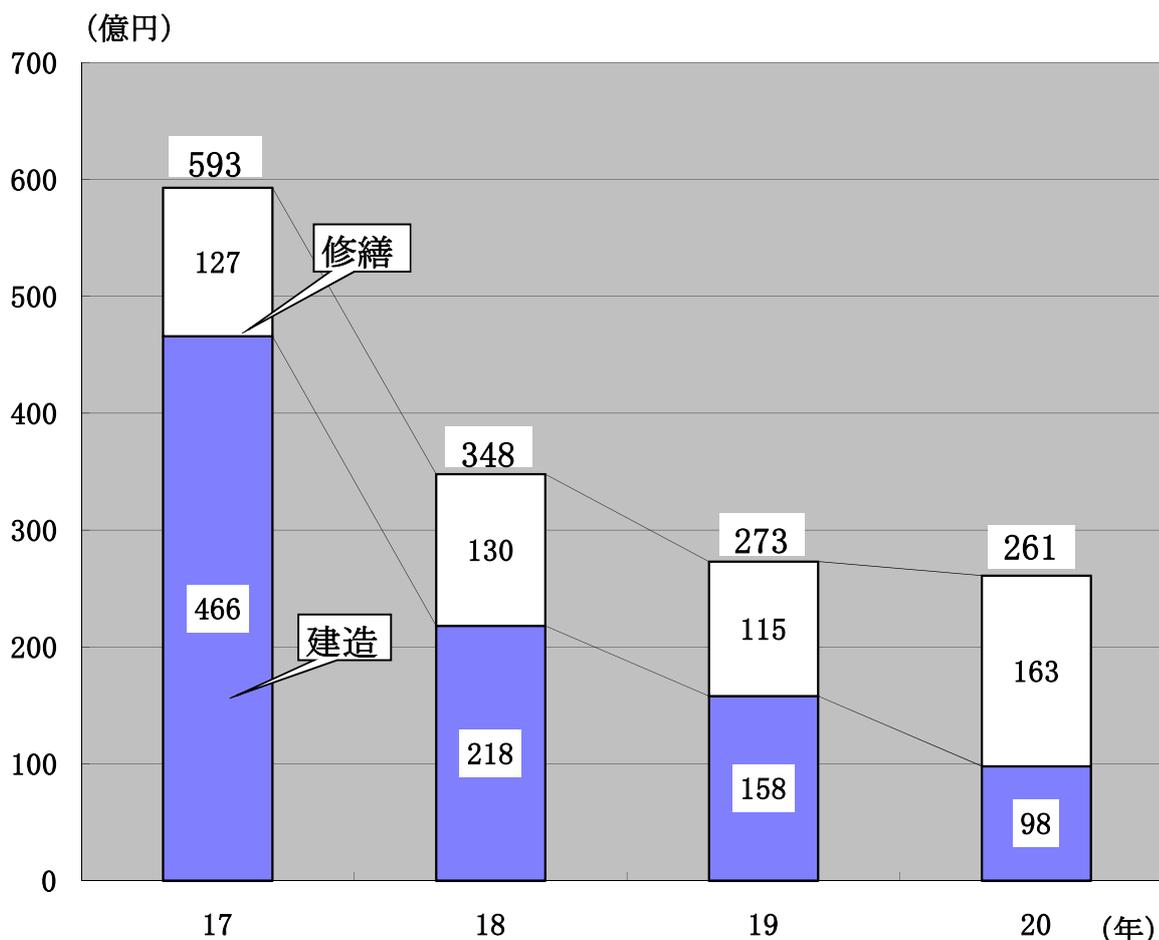
1. 造船業の概要

管内の造船事業者は、平成20年末現在で64社67工場です。(大半が修繕業を主とした小型造船所)

平成20年の建造及び修繕の総売上高は261億円で、建造の売上げが大幅に落ち込んだものの、修繕の売上げが伸びたため結果的に対前年比で4%の減となり、ほぼ前年並みの実績となりました。

(なお、平成17年の実績が突出しているのは大手造船所で船価の高い艦艇の建造があったため。以降、管内で艦艇の建造はされておらず。)

図1 造船業総売上高の推移



※20トン未満及び長さ15m未満の船舶の実績についても計上

※総トン数を有しない船舶(艦艇等)の実績についても計上

※近畿地区であるが兵庫県の実績を除く(兵庫県については神戸運輸監理部が管轄)

2. 建造実績

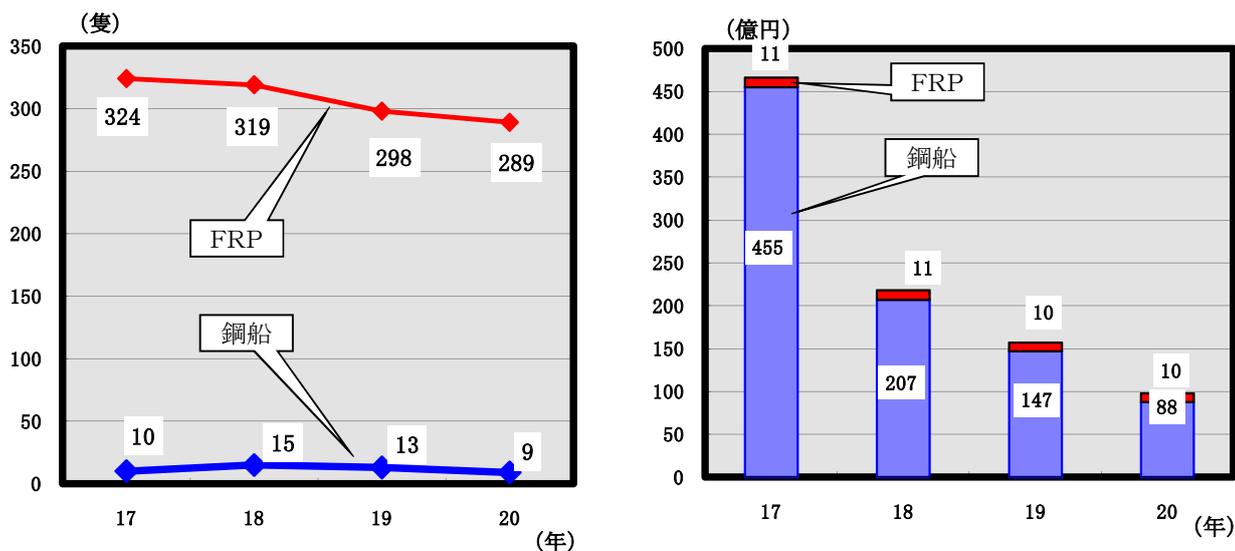
平成20年の建造実績は、298隻、98億円で、前年と比べると隻数で4%減、売上高で37%減と、隻数にそれほどの差はありませんが売上高としては大幅に減少しました。

これは、大手造船所で契約船価の高い海外輸出船の建造が減少したこと起因したもので、平成20年中頃までに起こっていた中国の建造ラッシュに影響を受けたものと思われます。

鋼船の内訳は、大型貨物船が2隻で、その他7隻でした。

FRPの隻数は、全て救命艇によるものでした。

図 2 建造隻数及び売上高の推移

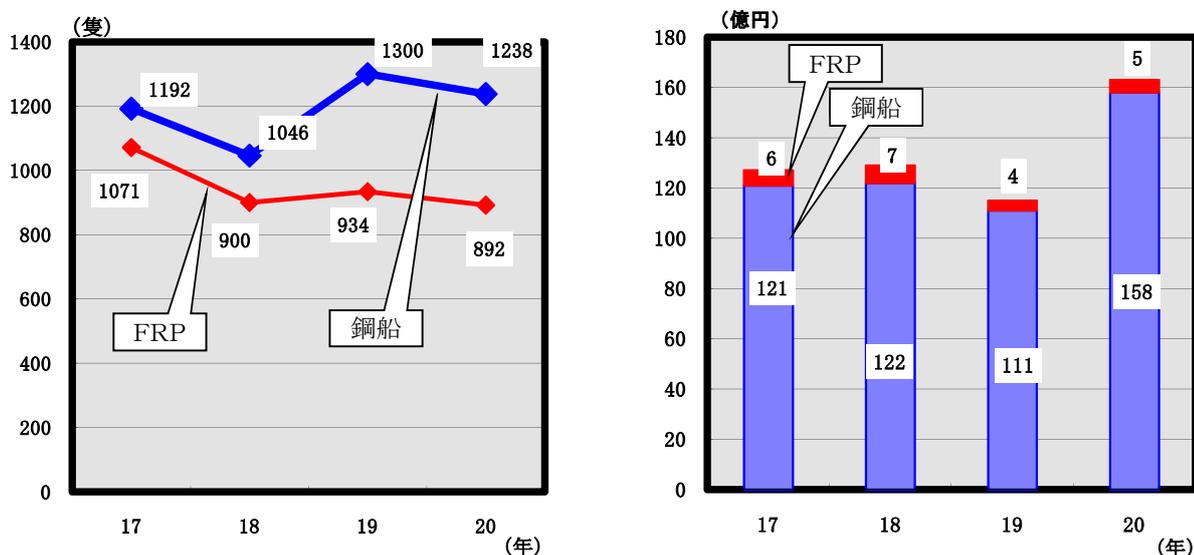


3. 修繕実績

平成20年の修繕実績は、2, 130隻、163億円で、前年と比べると、隻数で4%減少したものの、売上高では41%の増加と好調に推移した。

これは前年よりも隻数は減少したものの、トン数ベースでは増加しているため、大型船の受注が増えたためと思われます。

図 3 修繕隻数及び売上高の推移



※上図、FRPの数字については、木船も含む

Ⅱ. 船用工業

1. 船用工業の概要

管内の船用工業事業者は、平成20年末現在で148社150工場です。

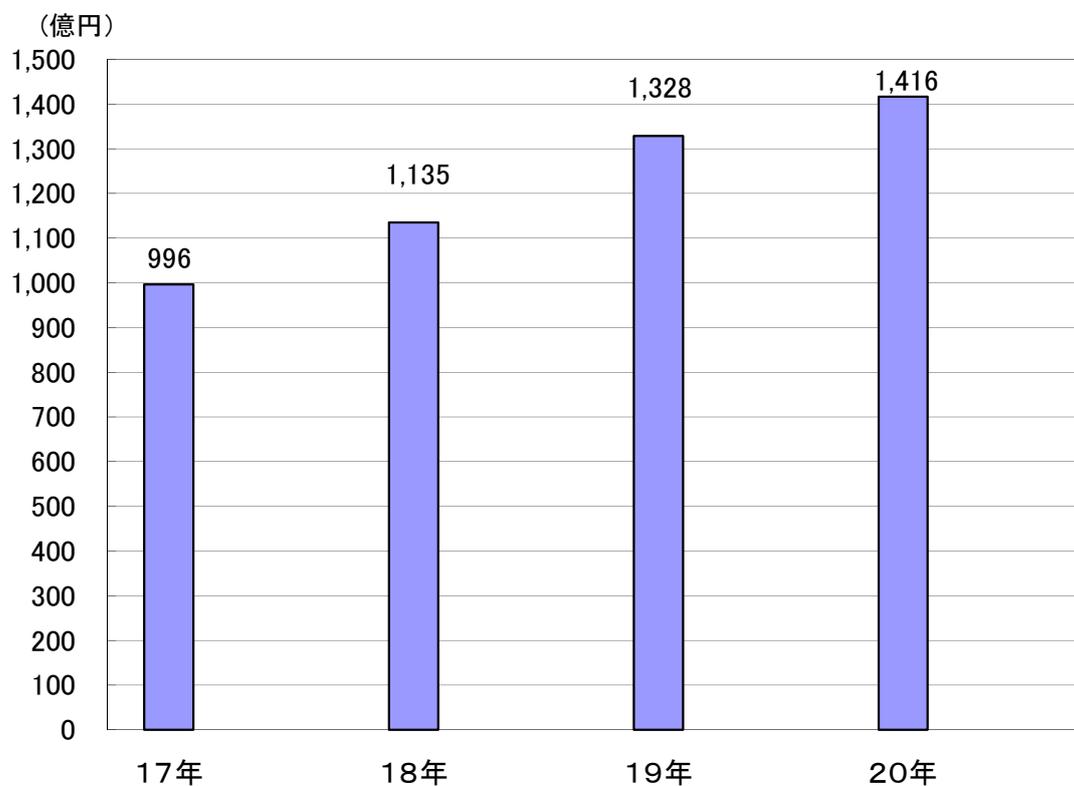
平成20年の管内船用工業の生産高及び修繕高の合計は1,470億円で、前年同期に比べ約6.5%(90億円)増加しました。

2. 生産実績

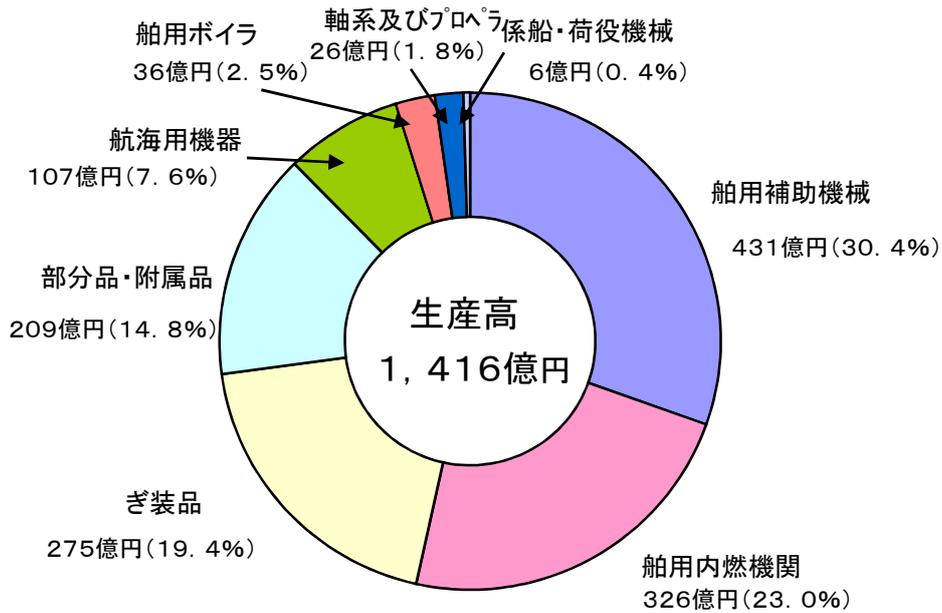
平成20年の生産高は1,416億円で、前年に比べ船用補助機械が減少し、船用内燃機関、船用ボイラ、係船荷役機械、軸系プロペラ、航海用機器、ぎ装品及び部分品・附属品が増加しました。

品目別で見ると、船用補助機械が431億円と最も多く、次いで、船用内燃機関が326億円、ぎ装品が275億円、部分品・附属品が209億円となっており、これら4品目で全体の約88%を占めています。

図Ⅱ-1 年別生産高の推移



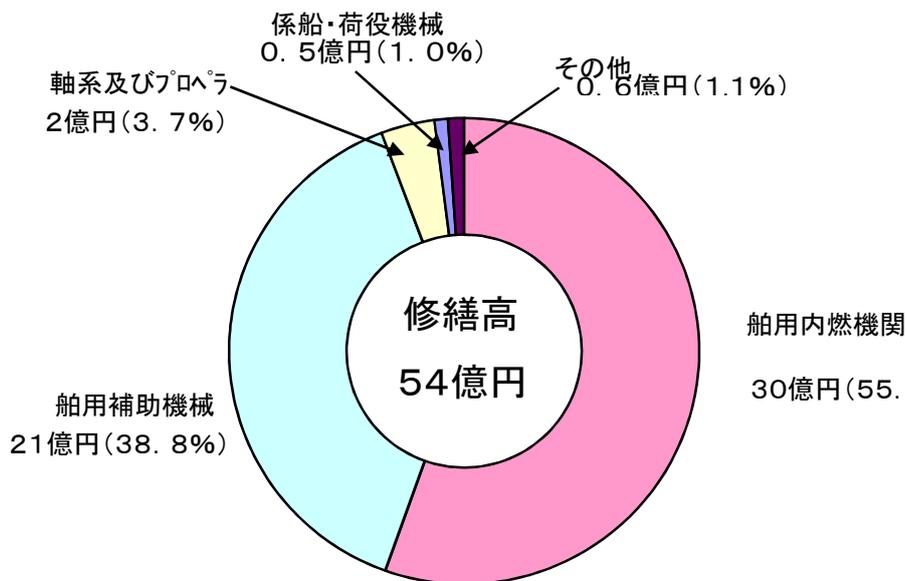
図Ⅱ-2 製品別生産高及び構成比



3. 修繕実績

平成20年の修繕高は54億円で、前年同期に比べ3.8%(2億円)増加しました。品目別で見ると、船用内燃機関が30億円、船用補助機械が21億円となっており、この2品目で修繕高の94%を占めています。

図Ⅱ-3 品目別修繕高及び構成比



近畿運輸局管内・・・大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県